

住本 貴美 氏 の学位審査結果の要旨

主査：野村 昌作

副査：藺田 精昭、木梨 達雄

自己免疫性膵炎（AIP）は1型と2型に分類され、本邦ではほとんどの症例が1型AIPである。近年、様々な自己免疫疾患に制御性B細胞（Breg）が関与していることが示唆されているが、1型AIPにおけるBregの関与については未だ報告がない。そこで申請者(住本貴美)は、1型AIPにおけるBregのサブセットの $CD19^+CD24^{high}CD38^{high}$ Breg と $CD19^+CD24^{high}CD27^+$ Breg の意義について検討を行った。1型AIP患者の $CD19^+CD24^{high}CD38^{high}$ Breg は、慢性膵炎患者・膵癌患者・健常人の各群と比較し、いずれも有意（ $P < 0.05$ ）に増加していた。これに対し、1型AIP患者の $CD19^+CD24^{high}CD27^+$ Breg は各群と比較して、明らかな減少傾向が認められた。一方、 $IL10^+$ B細胞は1型AIP患者と健常人との間に有意差がなく、1型AIP患者の $CD19^+CD24^{high}CD38^{high}$ Breg の比率と血清 IgG4 値には相関を認めなかった。今回の検討から、 $CD19^+CD24^{high}CD38^{high}$ Breg については、疾患の活動を抑制するために反応性に増加していることが推察された。また、 $CD19^+CD24^{high}CD27^+$ 細胞の減少が1型AIPで観察されたことから、 $CD19^+CD24^{high}CD27^+$ Breg が1型AIPの病因に大きく関与している可能性が示唆された。以上より、本研究は学位に充分値すると判断した。